

大学生と読書

—読書環境の変化 2—

University Students and Reading

—Changes in Reading Environment Part 2—

吉田 昭子

YOSHIDA Akiko

要旨

2019年12月の新型コロナウイルス感染症の発生から2年を迎えようとしている。本研究の目的は新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、大学1年生の読書環境がどのように変化しているのか、その実態を探ることにある。学生生活実態調査2020年によると、読書をしない学生と読書をする学生の二極化が確実に進行している。筆者が担当する授業の中で読書環境に関するアンケートを試み、学生のコメントから、大学1年生の書籍や雑誌の入手、廃棄の実態、新型コロナウイルスが読書状況に与えた影響について調査を行った。

その結果、学生が本の入手に際して、事前に様々な情報を集め、内容評価を行っていること、読み終わった本を友人にあげたり、古書店やインターネット上でリサイクルしたり、本や読書に対して真摯に取り組んでいることが判明した。学生たちは新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けながらも、新たなジャンルの読書や電子書籍、オーディオブックの活用、グループや家族での読書会の企画などに、積極的に取り組んでいる状況が明らかになった。

●キーワード：読書 (reading) / 大学生 (university students) / 電子図書館 (electronic library)

I. 新型コロナウイルス感染拡大と大学生の読書環境

2019年12月に新型コロナウイルス感染症の発生が伝えられ、既に発生以来2年を迎えようとしている。本稿では、新型コロナウイルス禍における大学生の読書状況を取り上げる。本稿の目的は、大学生の読書環境がどのような新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、コロナ以前と変化しているか、今後のコロナ感染状況に備えて、大学生の読書生活の変化の実際を探ることにある。

第I章では、2020年から2021年の新型コロナウイルスの感染状況、大学生の生活への影響について述べ、第II章では、2020年以後の大学生の読書環境の変化について先行研究の動向に関して概観する。第III章では筆者が担当する文化学園大学の学部1年生の授業で行ったアンケート結果から、新型コロナ禍の読書環境、本や雑誌の入手や廃棄などの実際について述べる。最後に第IV章ではコロナ禍と読書に関する学部1年生の感想や意見を基に、大学生の読書状況の変化と今後の課題について考察する。

1. 1 新型コロナウイルス感染状況の推移

世界保健機構 (WHO) によれば、2021年11月に世界の累計感染者数は2億5千万人、死亡者数は500万人に達している¹⁾。感染力の強いデルタ株などの変異株の流行により、国家や地域間でその感染状況には差異がみられる。ワクチンが開発され、世界中で接種が進められているが、経済状況の違いなどで各国、各地域でワクチン接種の速度や接種率には重大な格差が生じている。

日本国内では2020年1月に感染者が確認され、2020年4月に緊急事態宣言が発出された。緊急事態宣言解除後も、増減の波が繰り返されている。2021年夏には新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて1年延期されていた東京オリンピック、東京パラリンピックが開催された。

2021年8月には東京の新規陽性者数が5000人を上回り、第5波とよばれる深刻な状況が発生した。しかし、2021年8月下旬から、状況が一転して新規感染者数が減少し始めた。2021年11月に入って、日本国内では2回目のワクチンの接種率が約75%に達し²⁾、累計感染者数は約172万5千人、死者数は1万8千人となった³⁾。感染者数の急激な減少の理由はワクチン接種の効果と日本人の感染防止に対する努力の成果という見方もある。

しかし、世界的にみるとワクチン接種率の高い国においても、ブレイクスルー感染と呼ばれるワクチン接種後に感染する例が増加している。そのため、日本においても第6波の訪れを予測して感染拡大に対する備えをする必要があるという指摘がなされている。依然として新型コロナウイルスの感染拡大防止に対する日常的対策が不可欠な状態は継続している。

1. 2 新型コロナウイルス禍が大学生の日常生活に与えた影響に関する研究

日本国内で新型コロナウイルスが大学生の生活に与えた影響は、各地域によって差異がある。2020年は全国で多くの大学がオンライン授業中心の授業を実施した。しかし、2021年度に入ると、その地域の感染状況にあわせてオンライン授業と対面授業をあわせたハイブリッド授業を開始する大学も増え始めた。

新型コロナウイルスの影響の長期化が予測される中で、大学における今後の学生支援のあり方、これまで経験したことのない困難に大学生がどのように対応したのかについての関心が高まりをみせるようになった。近畿大学では感染症対策支援プロジェクトにおけるアンケート調査などが行われている⁴⁾。

大学生の生活について様々な視点からの広範囲の調査や研究が行われている。全国大学生生活協同組合連合会では、2020年4月から7月に大学生、大学院生を対象とした新型コロナウイルスの影響に関するアンケート調査がインターネット上で実施された。この調査では大学生が新型コロナ禍におけるアルバイト収入、経済的状況、オンライン授業、今後の進路に関した不安を抱いていることが指摘されている⁵⁾。

また、中央大学では新型コロナウイルス感染拡大の影響下で学生がどのように生活したか、暮らし方、時間の過ごし方、時間の満足度に関する調査が行われている⁶⁾。この調査は2回（2020年6月と10月）にわたって行われた。生活の中で増やしたい時間と減らしたい時間について調査を行い、増やしたい時間に「運動」「友だちと会う」「外出する」の他に「読書」があげられている。減らしたい時間には「スマートフォンの利用」、「インターネットの利用」、「授業課題をする」があげられている。

スマートフォンの利用時間を減らしたい理由としては、新型コロナウイルス感染拡大が続く中で、普段スマートフォンを利用する以外に、オンライン授業によってインターネットなどの利用が急激に増加したことが考えら

れる。コロナ禍で外出自粛が続き、友人との交流や人とのコミュニケーションの機会が減少した。これにより、自宅での1人の時間をいかに有意義に過ごすかを一人一人が考えるようになったことが、読書時間を増やしたいという希望に結びついていることが推測できる。

II. 読書環境の変化

2. 1 電子図書館の貸出件数の急増とその魅力

『朝日新聞』2020年4月24日朝刊に「コロナ禍を読書する機会に」と題した記事が掲載された⁷⁾。この記事では、全国大学生生活協同組合連合会が1963年以来実施している「学生生活実態調査」の2019年の結果を取り上げている。この調査では1日の読書時間が「0分」の大学生が48.1%を占めているが、その一方で、「60分以上」が26.8%に達している。つまり、4人に1人が60分以上読んでいることになる。過去15年で最も多い割合を示しており、読書する学生、読書しない学生の二極化が進んでいると指摘している。

著作権が消滅した作品は青空文庫で無料の電子書籍としてみることができ、古本はアマゾンでも購入でき、大学図書館はスマートフォンで検索して予約できるようになったことを例に取り上げ、大学生を取り巻く読書環境は急速にデジタル化が進みつつあるとしている。さらに、新型コロナウイルスの感染拡大で外出自粛が続く中で、この機会を読書の楽しさを知る大学生が増えることを期待していると述べている。

なお、コロナ禍以後に実施された「学生生活実態調査」の2020年では、読書ゼロの学生は47.2%と0.9%減少し、その一方で60分以上読書する学生が前年よりも増加しており、読書の二極化が着実に増加している。半年間（2020年4～9月）に電子書籍で読んだものはコミックス38.9%、趣味や関心のための書籍26.3%、教科書や参考書19.2%となっている。一方「電子書籍は読んでいない」という回答が33.8%存在する⁸⁾。

『サンケイ新聞』2020年7月27日大阪夕刊では新型コロナウイルスの影響で外出自粛が続く中で、全国の公共図書館で自宅でも利用できる電子図書館貸出件数が急増している点を取り上げている⁹⁾。東京都の千代田区立図書館では緊急事態宣言後の4月8日から5月20日までの臨時休館中には休館前の3か月の月平均貸出点数60点の約7倍に増加したとしている。電子書籍が持つ文字拡大や音声読み上げ機能など、紙媒体ではできないサービスを提供する手段として、今後電子図書館が急速に広がる

のではないかと指摘している。

電子出版制作・流通協議会によると、2021年10月1日の自治体の公共図書館で電子書籍貸出サービスを実施しているのは、258自治体、251館に達している。2019年10月1日は89自治体、86館であったが、2020年10月1日には114自治体、111館が導入している。これにより、新型コロナウイルス禍の環境下で電子書籍貸出サービスを開始する公共図書館が2020年に大幅に増加したことがわかる¹⁰⁾。

2. 2 公共図書館における電子書籍と紙媒体

『サンケイ新聞』2021年9月25日朝刊の「スマホで読める電子図書館人気 コロナ禍で貸出数が急増」では、全国の自治体で電子図書館の設置が急速に進み、今年度内に導入を予定している自治体もあると伝えている。この記事では電子書籍とはいっても、貸出に関しては紙の本と同じ方法がとられていることや電子書籍の価格、導入後の問題に注目している。

千代田区立図書館では1冊につき1人しか借りられないように設定しており、貸出中の資料は予約をする必要がある。個人で購入する電子書籍は紙の本よりも安く入手できる場合が多いが、図書館が貸出用に用意する場合は、1冊あたりのコストが紙の本の約2から3倍の高額になる。そのため、予算が潤沢な自治体でなければ、電子書籍の冊数を増やすことが難しい。

紙の本と違って、購入してしまえば終わりではなく、その都度コストがかかるという課題もあるが、電子書籍の導入によって得られる業務削減や人件費の節約を勘案すると、経費は安く抑えられる可能性もある。市民の2割しか公共図書館を利用していないと言われている現状では残りの8割の人の利用率を上げていく必要があるとしている¹¹⁾。

2. 3 電子書籍のメリットとデメリットとその導入状況

インターネットによる電子書籍の提供は紙媒体の書籍では実現できない利点がみられる。利用者は場所や時間にとらわれずインターネットを通じて電子書籍の検索、貸出、返却、閲覧をすることができる。音声再生可能な電子書籍貸出サービスを用いれば、文字を読むことが困難な人でも読書をすることができる。

図書館側にとっては、蔵書保管の省力化、省スペース化を図ることができる。資料の汚破損や紛失を回避することができ、職員が貸出、予約、督促業務を行う必要は

なく、返却期限が過ぎた電子書籍は自動的に返却されるなどのメリットもある。

電子書籍を実際に導入するにあたっての懸念としては、導入のための予算確保が難しいこと、電子書籍貸出サービスで提供されるコンテンツが少ないこと、導入に対する費用対効果をどのように考えるかといった問題をあげることができる。

電子書籍のコンテンツの供給に関しては、日本における書籍の電子書籍化率については、ISBNをキーにしたマッチング調査によると11.9%という研究結果がある。ジャンル別にみると、漫画は出版年の古いものでも電子書籍化されている率が高い。2010年以降では文芸、小説、ライトノベルよりも実用ジャンルの電子書籍化の立が高くなっているとしている。出版年別にみると、2017年29.6%、2018年31.2%、2019年33.2%と推移しており、全体的には徐々に電子書籍化率が高くなっており、コンテンツの量は増加しつつある¹²⁾。

電子出版制作・流通協議会が実施した「電子図書館アンケート」によると、新型コロナウイルス感染拡大を機に公共図書館の意識が変化し、導入予定がないと回答した自治体は減少している。しかし、積極的に導入を希望する自治体は増加しておらず、前年度に対して減少しているという。電子書籍を利用するにあたっては、その利用目的にあわせ、電子書籍と紙の本が持つ特徴を生かして補完的に使用する必要があるという指摘が行われている¹³⁾。

III. 大学生の読書環境の実際

第II章で取り上げた調査・研究結果から、資料を提供する図書館などの視点でみると、大学生を取り巻く読書環境は新型コロナウイルスの感染拡大を機に、急速にデジタル化が進展し、電子書籍が浸透しつつあることになる。しかし、新型コロナウイルス禍において利用者である大学生がどのような読書環境で過ごしていたか、その実態は明らかになっていない。

そこで、筆者が担当する国際文化学部の日本語文章作成演習IIの授業の中で、1年生42名を対象として読書状況について質問紙によりたずねた。学生は実際に本や雑誌をどのように入手し、どのように保管したり、処分したりしているのかをたずねた。

各質問に対して得られた回答数を第1から第3表に示した。大学生から寄せられたコメントを加えた。

3. 1 本・雑誌などの入手方法

【質問】あなたは本や雑誌を読みたいとき、読みたい雑誌（漫画を含む）などをどのように手に入れますか（複数回答可）

- ①書店で買う
- ②図書館で借りる
- ③インターネットで購入する
- ④その他

第1表 本・雑誌の入手方法（複数回答可）

回答	①書店	②図書館	③インターネット	④その他
人数	33	8	19	1
割合%	78.6	19.0	45.2	2.4

書店での購入が入手方法としては78.6%と最も多くを占め、次にインターネットでの購入があげられた。新型コロナウイルス禍でも実際に手に取って内容を確認することができる書店で購入することが最も多くを占めている。しかし、外出自粛を余儀なくされてからは、感染防止のためにも、自宅から注文することができるインターネットで入手している場合が増加している。その他には電子書籍で購入というコメントがついていた。

図書館を利用した学生は19%みられるが、緊急事態宣言発出中は多くの公立図書館が感染防止のために休館しており、近くの図書館に出かけることができなかったことが影響していると考えられる。2021年10月に緊急事態宣言の解除を受けて、10月末に実施された調査で新型コロナウイルスを理由に休館している図書館はゼロ館となった。個別に開館時間などに変化はあるが、通常利用に近い形のサービスが展開されるようになった¹⁴⁾。

☆学生のコメント

○外出自粛以前は、書店によって雑誌や本を見るのをたのしみにしていたが、事前に読みたい本を検索しておいて、感染防止のために書店での滞在時間を短縮するようにしている。

○買いたいものの内容を比較確認できるので書店に出かける。外出自粛期間中はSNSでおすすめの本の特集を見て、候補の本を定めてから出かけるようにした。

○地元の図書館で借りるため、本を購入することは一切ない。そのため、図書館が閉館していた間は全く読書ができなかった。図書館が再開してからは、週2回以上通うほど読書時間が増加した。コロナ禍では難解な本に挑戦している。借りる際には予約機能を活用してスマホで

手続きをすませており、気になる本は図書館で見つけることができている。

○コロナ以前は書籍や漫画を読む時には書店に行っていたが、コロナ以後はスマートフォンやパソコンでインターネットを通して買うことが当たり前になった。

○購入する本の価格は1000円程度のイメージで、金銭的に余裕がない場合はフリーマーケットやブックオフで購入することもある。

○書籍を選ぶ場合は、まずインターネットでコメントや評判を確認してから、実際に書店に行って内容を確認してから購入する。

○アルバイトをしてお金を稼いでいるので、書籍などを買う場合に価格は重要な要素である。自粛期間には漫画やアニメなどを見る時間が増え、無料でみられるものやサブスクリプションなどの月額で支払うものを工夫して使うようになった。

3. 2 読み終えた本や雑誌の処理方法

【質問】読み終えた本や雑誌（漫画を含む）などは、どうしますか。（複数回答可）

- ①ごみ収集日に捨てる
- ②家に保存する
- ③友人などにあげる
- ④ブックオフなどの古書店に売る
- ⑤メルカリなどを使ってインターネット上で売る
- ⑥その他

第2表 読み終えた本・雑誌の処理（複数回答可）

回答	① ゴミ	② 家	③ あげる	④ 古書店	⑤ インターネット	⑥ その他
人数	1	34	5	9	11	0
割合%	2.4	81	11.9	21.4	26.2	0

可能な限り自宅に保存するという回答が最も多く見られた。次に多いのがメルカリなどを使ってインターネット上で売る方法や古書店に売る方法である。インターネット上で売ることを選択している学生は入手も大半がインターネットで行っている。

ほとんど自宅に保存しているが、本の種類によっては廃棄する場合もあるというコメントも見られた。住宅事情で本や雑誌を取っておくスペースがないために廃棄しているというケースもある。

☆学生のコメント

○子どもの頃は読書が好きで購入した本は家に保存していたが、現在は家が狭いので保存する場所がない。できるだけ本や雑誌は買わないようにして、インターネットで探して電子書籍で読むようにしている。

○コミックはまず電子書籍で読んでから、気に入った作品はセットで購入するようにしている。自分の部屋のインテリア、装飾的な要素があり、保存用に購入している。

3.3 コロナ禍における読書時間の変化

質問 コロナ禍において、あなたの読書時間には変化がありましたか。

- ①読書時間が増加した
- ②特に変化はない
- ③読書時間が減少した

第3表 コロナ禍の読書時間の変化（複数回答可）

回答	①増加	②変化なし	③減少
人数	15	25	2
割合%	35.7	59.5	4.8

新型コロナ禍に伴う読書時間については、特に変化はないという回答が最も多く、59.5%を占める。一方で4.8%がオンライン授業などで、読書時間は減少したと回答している。読書時間が増加したと回答している学生は35.7%みられ、外出自粛でできた自由時間をいかに使うかと考えて、読書をすることにしたという回答が多い。

☆学生のコメント

☆特に変化はないと回答している学生

○外出自粛の影響により自宅で過ごす、いわゆる「お家時間」が増えても、本来読書習慣がないので、自由時間があっても読書をしたという気持ちにならない。

○日常的にオンライン授業が増加して、課題がこれまでよりも増加し、パソコンを使う機会が増えたため、本を読もうという意欲がわかず、以前のように本は読まなくなった。

○スマートフォンを使い始めてから、ほとんど紙の本を読むことがなくなったため、本を読むとしても電子書籍で読むようにしているため、状況は新型コロナ感染拡大以前と変わりはない。

○デジタル化が進んだことで、娯楽の種類も急速に多様化し増加した。自宅で過ごす時間が増えても、読書以

外にやりたいことが沢山あり、新たに読書をするのではなく、特に変化はない。

☆読書時間が増加したと回答している学生

○自宅で過ごす自由時間が増えたために、家でスマートフォンやパソコンを使って長時間動画を見るようになった。もっと時間を有意義に過ごしたいと考え、紙媒体の本を読んでみることにしたため、以前よりも読書時間が増加した。

○外出自粛の長期化により、自分がこれまで読んだことのない新たなジャンルの本を読みたい、新たなことに挑戦してみたいという気持ちが強くなり、読書時間が増加した。

○外出自粛で家族とともに過ごす時間が増え、家族でテーブルを囲んで家族それぞれ自分が読んでいる本について話す機会が増え、楽しく過ごすことができるようになった。

○外出自粛期間に友人と自分のお気に入りの本を交換して紹介しあったり、読後感想について話し合ったりする機会が増え、本好きの友達のグループができた。グループで読書を楽しむことで、自宅でのリモートワークなどで生じたストレスや孤独感が解消できた。

○子ども時代は、読書とはすなわち紙の書籍や小説などを読むことであり、漫画などを読むことは含まないと考えていた。読書に対して堅苦しいイメージを持っていたが、読書に対する定義が変わってきており、最近ではもっと広範囲に気軽にとらえてよいのではないかと思うようになったため、読書時間は増加した。

○新型コロナウイルス感染拡大が始まってからは、一人で過ごす時間が増えた。これまでは文字を読むのが苦手な読書が好きではなかったが、最近ではオーディオブックという電子書籍を読み上げるアプリケーションを使って、聞くようにしている。文字は苦手でも耳から聞くことができれば、新たな知識を蓄積できることに気づき、読書時間がこれまでよりも増加した。

○自宅で過ごす時間が増えて自由時間が増えた。以前図書館に行く時間も無駄だと考えていたが、外出自粛になって、無料で利用できるコンテンツがインターネット上で提供されていることに気づき、電子書籍を利用するようになった。

○読書をすることで、外出しなくても旅行しなくても、旅をした気分になることができる。

○新型コロナウイルス感染拡大は読書の魅力を再認識するチャンスであると考えようになり、以前よりも読書

時間が増加した。

○自分は外出自粛期間を機に電子書籍デビューをした。コロナ禍の電子書籍の読書キャンペーンで破格の値段で電子書籍が販売されたことをきっかけに、アニメ関係だけではなく小説や教科書など他のジャンルにも興味を持つようになった。

○電子書籍の魅力は、いつでもどこでも購入でき、手軽に利用できることであり、紙に比べて安価に入手できることである。

☆読書時間は減少したと回答している学生

○読書時間の自宅で過ごす時間が増えたが、外出自粛でパソコンやスマートフォンを使う機会が大幅に増大した。パソコンやスマートフォンなどは依存度が高く、一度始めるとなかなかやめることができなくなる。スマートフォンを使う時間を少なくしないと、読書にあてる時間がとることができず、以前よりも読書時間が減少した。

IV. 考察と今後の課題

第Ⅱ章で取り上げたように、今、読書する学生と全く読書しない学生、その二極化がさらに進んでいる。今回調査した学生のコメントから読書の実態を探ってみると次のようなことがわかった。

まず、学生は本の扱いはとても大切なものであると考えている。本を入手するに当たって、実際に自分で手に取ってみたい、検索したり、SNSで他者の意見を参考に、本を選択している。また、読み終わった本を「ゴミ扱いにしていない」、古書店やインターネットで売ったり、友人にあげたり、利活用の意識も持っている。つまり、本や読書すること自体をかなり真摯にとらえているということが出来る。

次に、3.3の読書時間の変化に関するキーワードを整理してみると、次のようなことをあげることができる。

- ①習慣がないので自由時間があっても読書はしない。
- ②オンライン授業のため
- ③スマートフォンの普及やパソコン利用の増加
- ④新たなチャレンジ
- ⑤新たなジャンルへ
- ⑥読書会、アニメシオン
- ⑦漫画も読書
- ⑧アニメから他のジャンルへ
- ⑨オーディオブックの活用
- ⑩電子書籍

①の「習慣がないので…」は、日常生活時間の使い方の中で、学生が自分の時間をいかに使うか、何を大切にしているかを振り返る必要がある。読書の目的を語彙力が高まる、漢字を覚えるのに便利といったことではなく、読書を生活の中にどのように位置づけるかを、もう一度とらえ直してみる必要がある。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で②のオンライン授業が始まり、③のスマートフォンやパソコンの利用時間が増加した。スマートフォンやパソコンに対する依存、長時間利用などの側面もあるが、情報活用や評価の多様な手法を身につけられる機会を得たということもできる。

④新たなチャレンジ、⑤新たなジャンルでは、既存の枠組みにとらわれず、新たな枠組みや知識への興味を持ち、次の段階への発展の原動力となる段階に進んでいる。

⑥の読書を通じて意見交換を行ったり、感想を話し合う機会を自分で設定している。そして、コミュニケーションを楽しみ、個々人の交流の新たな輪を広げることに成功している。

⑦の漫画も読書は、読書は漫画ではないという既成概念を否定することから出発している。⑧のアニメから他のジャンルへ、⑨のオーディオブックの活用、⑩の電子書籍の活用は既存の「読書の枠組み」をさらに大きく拡張し、新たな枠組みを形成していくことの必要性を示唆している。

読書習慣がなく、読書はしないという学生にも新たな枠組みでとらえ直すことで、これまでには気づけなかった糸口を見出す可能性が残されている。

読書しない学生と読書する学生の二極化が進んでいることは様々な問題を内包しており、引き続き取り組むべき大きな今後の課題であるということが出来る。

注・参考文献

- 1) 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) WHO公式情報特設ページ 世界地域別COVID-19 確定者数 (WHO最新データを視覚的に掲載)
https://extranet.who.int/kobe_centre/ja/covid (参照2021-11-13)
- 2) NHK特設サイト新型コロナワクチン情報一覧 (ワクチンの最新データを掲載)
<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/vaccine/> (参照2021-11-13)
- 3) NHK特設サイト新型コロナワクチン日本国内の感染者 (NHKまとめによる最新集計)
<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/data-all/> (参照2021-11-13)
- 4) 熊本理抄. 「“オール近大”新型コロナウイルス感染症対策支援プロジェクト」におけるアンケートならびにインタビュー調査の結果から: 大学生が直面した困難の分析と大学による支援の検討. 近畿大学教育論叢. 2021, vol.33, no.1, p.139-172.
- 5) 全国大学生生活協同組合連合会広報調査部. 7月版緊急! 大学生・院生向けアンケート大学生集計結果速報.
https://www.univcoop.or.jp/covid19/recruitment_thr/pdf/link_pdf01.pdf (参照2021-11-13)
- 6) 都築学. 大学生の大学生活への初期適応に関する研究: 新型コロナウイルス感染拡大による生活の変化が適応に及ぼす影響. 中央大学保健体育研究所紀要. vol.39, p.1-33.
<https://ci.nii.ac.jp/naid/120007165583> (参照2021-11-13)
- 7) “コロナ禍を読む機会に”. 朝日新聞.2020年4月24日朝刊 10頁.
- 8) 第56回学生生活実態調査の概要報告.
<https://www.univcoop.or.jp/press/life/info.html>
- 9) “電子書籍貸出急増 コロナ禍の図書館 来館不要、3密回避”. サンケイ新聞. 2020年7月27日大阪夕刊.
- 10) 電子出版制作・流通協議会. 電子図書館 (電子書籍貸出サービス) 実施図書館 (2021年10月01日)
https://aebs.or.jp/Electronic_library_introduction_record.html (参照2021-11-13)
- 11) “スマホで読める電子図書館人気 コロナ禍で貸出数が急増”. サンケイ新聞. 2021年9月25日東京朝刊.
- 12) 鷹野凌. 日本における電子書籍化の現状 (2020年版): 国立国会図書館所蔵資料の電子化率調査.
https://www.shuppan.jp/wp-content/uploads/2020/09/02_takano.pdf (参照2021-11-13)
- 13) 長谷川智信. 公共図書館における、電子図書館サービス導入の実態と課題、新型コロナウイルス感染問題による図書館の意識の変化について.
https://www.shuppan.jp/wp-content/uploads/2020/09/01_hasegawa.pdf (参照2021-11-13)
- 14) save MLAK.COVID-19の影響による図書館の動向調査 (2021/10/25) について.
<https://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:%E3%83%97%E3%83%AC%E3%82%B9/20211026> (参照2021-11-13)